

AGENDA

淡路夢舞台国際会議場ニューズレター

2007

秋号

VOL.30

平成19年10月発行
兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
兵庫県淡路市夢舞台1番地
電話(0799)74-1020
FAX(0799)74-1021
<http://www.yumebutai.org>



秋天や

最も高き

木が愁う

夕雨



コスモスの
揺れ返すとき
色乱れ
何子

爽やかな風

高く澄んだ空

色づく木々と草花…

柔らかな陽の光さす

淡路島より

会議・イベント情報をお届けします

写真上：妙勝寺の大楠(淡路市)

写真下：あぜ道のコスモス(洲本市)

撮影 松林 真弘

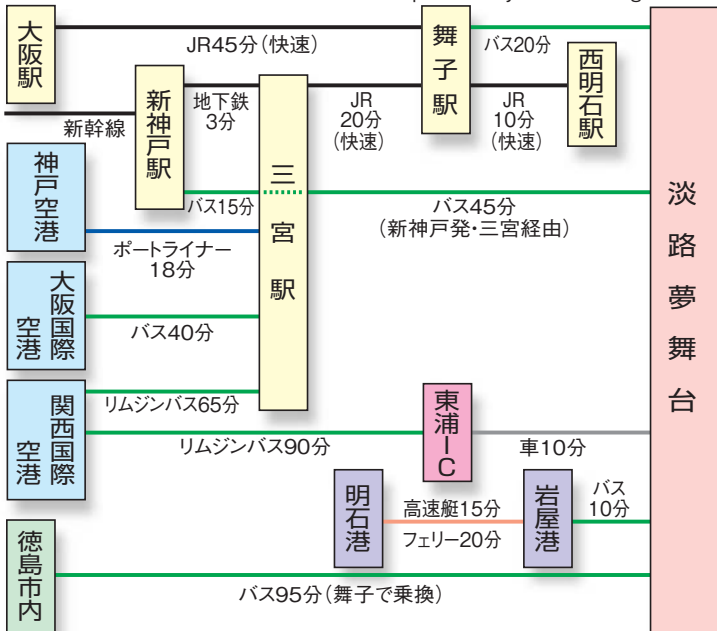
第7回あわじしま感染症・
免疫フォーラム(9月)

交通アクセス



公共交通機関

▶ 運賃、時刻表等、詳細はHPをご覧ください。
http://www.yumebutai.org



ご利用料金(税込)

会議室名称	面積 (㎡)	利用料金(円)		
		9時～12時	13時～17時	9時～17時
メインホール	580	90,000	120,000	209,000
イベントホール	481	75,000	100,000	174,000
アンフィシアター	275	45,000	60,000	105,000
レセプション ホール	A	127	22,000	30,000
	B	258	44,000	58,000
会議室	311	179	15,000	20,000
	301	173	15,000	20,000
	405	91	8,000	11,000
茶室	A	90	18,000	24,000
	B	10	3,000	3,000
合計(全館利用)		407,000	539,000	927,000

※他に会議室・討議室・控室等18室を4,000円(9～17時)からご用意しております。
ご利用にお得な制度もございます。詳しくはお問い合わせ下さい。
淡路夢舞台国際会議場 TEL:0799-74-1020

あとがき

長く厳しい残暑がようやく落ち着いたかと思うと一気に秋の色が濃くなってまいりました。とりわけ暑かった今年の夏のある日、突然飛び込んできた阿久 悠さんの訃報。作品を調べてみると、「北の宿から」「勝手にしやがれ」「津軽海峡 冬景色」「UFO」「宇宙戦艦ヤマト」「ウルトラマン・タロウ」をはじめ、私が子供の頃に流行った歌謡曲、今でも口ずさむことのできる名曲が名を連ねます。まさに“淡路島が生んだ偉大な人”であったと改めて感じました。(爲後)

淡路夢舞台国際会議場のスタッフ紹介

今号から当国際会議場のスタッフを順不同に紹介させていただきます。初回は松林コンファレンス部次長。淡路島で生まれ育ち、前職は銀行マン。当会議場開業以来、会議誘致を担当し、営業のリーダーとして、また現在は会議支援課長を兼任してコンファレンス部内を取りまとめています。私の知る限りでは山野草採集、写真(アジェンダ表紙写真も担当しています)と、いくつか趣味を持っているようですが、中でも根っからの「釣りキチ」で、仕事での営業活動とプライベートでの野外活動のためか一年中日に焼けています。この「スタッフ紹介」初回を記念し、本人からの寄稿を掲載します。(爲後順子)

釣り—私の趣味

いつもご利用ありがとうございます。会議誘致担当の松林真弘です。

さて、今回は私の趣味についてお話ししたいと思います。個人の趣味というものは千差万別ですが、興味のない第三者からは「なんと無駄な」とか、「理解に苦しむ」とか、「ほとんど病気」などという言葉で片付けられてしまうのが落ちです。大抵の場合、他人どころか家族の者にすら同様に扱われてしまうのが世の常であります。ところが、外野からどう言われようと当の本人は意に介さず、自らの病状にも気づかず、我が道を行くものです。少々、前置きが長くなってしまいましたが、私の趣味は「釣り」と「釣り関係文献の蒐集」です。実釣の方は、荒磯のグレ釣り、清流のアマゴ・イワナ釣りと20年ほど彷徨い歩いた挙げ句、ここ5年間は野池のヘラブナ釣りに憑かれております。一方、古書蒐集の方はと言いますと、明治・大正・昭和から現代に至るまで、ジャンルを問わず集めた釣り関係古書が3千冊あまりといった病状です。勿論、家人からは「また行くの?」とか、「全部読めるの?」とか言われておりますが、本人はそんな愚問には返事もせず、心の中で「見たらわかるやろ!」とか「一生かかっても読めんわ!」などと嘯いているわけです(注:あくまでも心の中で・・・)。

さて、釣師が釣り上げた魚の話は古今東西あてになりませんので、ここでは割愛させていただきます。何故なら、釣り上げられた魚というのは、日々確実に成長するからです。30cmなら1週間で40cm以上に、1ヶ月も経てば見事な50cmオーバーの大作に変身するものです。開高 健氏などは、「釣りの話をする時は、両手を縛っておけ」という名言を残している程です。そこで、今回は偽りのない釣り関係古書についてご紹介したいと思います。

淡路島といえば、昔から釣りが盛んな土地柄です。文人釣師であった、かの井伏鱒二氏も洲本市由良沖で鯛釣りをした経験を名著「釣師・釣場」に残しております。ところが、地元の人間で釣りに関する文章を残した人物が見あたりません。そこで、色々文献を探してみましたところ、永田秀次郎という名前が浮かび上がってきました。永田秀次郎、俳名は青嵐といい、明治9年に現在の南あわじ市(旧三原郡)に生まれました。戦前に東京市長や鉄道大臣を歴任した大物官僚です。彼が残した著書の一つに「青嵐随筆 九十五点主義」という書籍があります。根っからの釣り好きだったようで、東京市長への就任要請に対して、「日曜日は釣りに行くので仕事はしない」という条件を呑ませたというエピソードまで残っています。「何事にも完全無欠」というものは少ない、もし強いて完全無欠を求めむとすれば、そこに無理が伴う事は免れない」と書いてあるように、仕事も趣味も100点よりは95点の方



写真: 左「釣師・釣場」:昭和35年新潮社刊
右「青嵐随筆九十五点主義」:昭和10年
実業之日本社刊



青ギスの脚立釣り(昭和初期)
写真:佐藤 振石著「垢石傑作選集」より

方がほどほどで良いという意味でしょうか(秀才の青嵐らしいレベルの高い話で、私などはいつも60点取るのにも必死です)。遠く淡路島から離れ、生まれ故郷の海を想いながら釣り糸を垂れたのでしょうか。青嵐が好んだ青ギスの脚立釣りは、戦争が始まるまでは東京湾の風物詩だったとか。永田青嵐、私の最も愛する釣師です。